

## 大井町立上大井小学校

研究テーマ：質の高い授業の創造 ～学び合い、「できた」喜びを実感できる授業～

### 1 実践の目的

本校の学校教育目標は「自立する子どもの育成」である。児童は日頃から「自分から」を合言葉に、あいさつや清掃、係活動や児童会活動を進んで行っている。

学習でも多くの児童が真面目に取り組み、努力をしているが、それがなかなか学力に結びついていかないという実態があった。

そこで、授業でも「自分から」が見られるよう、2年前から計画的に研究を進め、授業改善を行ってきた。具体的には「自分から」課題を見つけ、「自分から」学び合い、「自分から」学びを深めようとする姿が見られる授業である。これらが達成されることで、児童の学習への意欲は高まり、結果的に学力の向上につながるのではないかと考えた。

このことを児童の学習活動に当てはめ、下記の3つの活動の充実を図ってきた。

- ① めあての設定
- ② 学び合い
- ③ 振り返り

これまで①と②を1年ずつ研究してきたが、学校評価アンケートでは年々「授業が楽しい」「内容がよくわかる。」など、授業に対する肯定的な評価の割合が向上している。

今年度は主に③の「振り返り」について算数科、特別の教科道徳で、各学級、工夫のある実践を積み重ねてきた。そして、児童が「自分から」学びを深め、「できた」が実感できる授業づくりにおけるヒントや具体的な指導方法について、多くのものを得た1年となった。

### 2 実践の内容

【算数】

○めあての設定

#### 2年「新しい計算を考えよう」

児童の実態から、問題に出てきた数字の順番に立式をする児童が多いことを予測し、式の意味からめあてをつくった。実態把握の正確さが、スムーズなめあての設定に活かされた。

○学び合い

#### 5年「かけ算の世界を広げよう」

3～4人のグループで『まなボード』を使って考える活動を日頃から取り入れていることで、児童がスムーズに話し合いに取り組み、多様な考えを引き出すことができた。



○振り返り

#### 1年「3つのかずのけいさん」

#### 4年「分数をくわしく調べよう」

授業の前半部分を、テンポよく進め、振り返りまでの時間を確保することができた。学習したことを深めるためには、適用問題まで取り組むことの必要性と、その積み重ねが大切だとわかった。

## 【特別の教科 道徳】

### ○めあての設定

#### 3年生「ゆうすけの朝」

事前に行った生活習慣のアンケート結果をグラフ化し、モニターに提示した。そこから自分たちの課題に気づかせ、めあての設定につなげた。



### ○学び合い

#### 4年「日曜日のバーベキュー」

時系列に沿って話を追いながら学びを進めていき、教師が深く考えさせたい場面ではロールプレイを行い、主人公やその友達の行動について動作化し、話し合った。3つのロールプレイを取り入れて状況を『見える化』したことで、児童の理解が深まり、学び合いが活発化した。

### ○振り返り

#### 1年「どんぐり」

うそをついて自分をごまかした主人公に対し、「正直に伝えられるように応援する」という立場で手紙を書いたり、役割演技をしたりすることで、正直に生きることの良さについて実感できた。



## 3 実践の成果

- 具体物や半具体物の提示や操作、ICTによる教材のアニメーション化などによって、子どもたちは学習内容を早く正確に理解することができた。
- 今年度の校内研究では、児童と同じように教員もグループによる協議を大切にし、気軽に自分の意見が話せる場を設定した。付箋を使うことで話すきっかけとなり、学び合いの活発化につながり、またそれを他のグループに発信することで、参加者全員の学びがより一層深まった。



## 4 今後の展開

この3年間、授業改善の柱として掲げた「めあての設定」「学び合い」「振り返り」について、1年ずつ焦点を当てた研究を進め、上大井小学校における算数科と特別の教科道徳の授業のスタンダードをつくることができた。また、学習の基盤となる「話し方」「聞き方」についても、低・中・高学年で系統性をもたせながら指導を行ってきた。

今後は、今回の研究によって見えてきた本校の児童の実態に寄り添った、より効果的で実効性のある研究に焦点化して、より「質の高い授業」を実践できるようにしていきたい。

聴き方名人 か・み・お・お・い

か	お	を	見	て、		
み	ん	な	集	中、		
お	も	い	を	比	べ、	
お	わ	り	ま	で、		
い	い	姿	勢	で	聴	く。